

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
楽曲研究基礎 3-C-2-15	近松 博郎	選択	1	15時間	1/2	毎年

【授業の概要】

優れた演奏に一定の型(フォーム)があるように、専門的な文章を分かりやすく書くためにも習得すべき事項がある。様々な情報発信を期待される現代の演奏家にとって、こうした文書を作成し適切な文章表現法を身につけることはますます必要となるだろう。本授業は、原則として修士論文の執筆を想定した内容となるが、修士演奏による審査を受ける予定の学生にとっても研究レポートやリサイタル等の曲目解説執筆のために受講を推奨する。履修1年目は合同での講義を主体として演習(プレゼンテーション)を含む。履修2年目は個人指導となる。下記の授業計画には100分の指導を8回実施するものとして大まかな流れを記載しているが、実際の日程および1回あたりの指導時間は個々の進捗に合わせて調整する。

【到達目標】

- 履修1年目： 音楽における専門的な文書作成および文章表現の基礎を学ぶ。必要となる資料・情報を自分で収集できるようにする。また、参照機会が多くなる批判校訂版楽譜とその扱い方についても学習する。
- 履修2年目： 研究計画に沿って研究を進め、修士論文を完成させる。

【授業計画】

◆履修1年目

第1回 授業: 事前学習: 事後学習:	[5/19(火) 11:20~13:00] 研究と研究論文 研究とは何か、研究の意義、論文テーマの立て方、整った書式の重要性等について学ぶ。 各人の前期プレゼンテーションのテーマを決める。 授業までに、佐藤望編著『アカデミック・スキルズ 第4版 AI時代の知的技法入門』(慶應義塾大学出版会、2026年)を入手し、大まかに目を通しておく。 前期プレゼンテーションの準備を進める。
第2回 授業: 事前学習: 事後学習:	[6/16(火) 11:20~13:00] 研究対象について 音楽研究における対象の範囲、また資料とは何かを学ぶ。 前期プレゼンテーションの経過を発表し、意見を出し合う。 音楽研究のテーマとしてどのようなものがあるか、5つ以上探しておく。 前期プレゼンテーションの準備を進める。
第3回 授業: 事前学習: 事後学習:	[6/30(火) 11:20~13:00] 文献・先行研究の探し方 論文やレポートの執筆に際して必要となる文献や先行研究の探し方について学ぶ。『ニューグローヴ世界音楽大事典』等の音楽事典、作曲家作品目録、RILM、ProQuest等を実際に使用し、活用方法を習得する。 前期プレゼンテーションの経過を発表し、意見を出し合う。 自分はいつもどのように文献を探すか、まとめて説明できるようにしておく。 前期プレゼンテーションの準備を進める。
第4回 授業: 事前学習: 事後学習:	[7/7(火) 11:20~13:00] 論文執筆のルールと書式 論文における引用の仕方、脚注のつけ方、参考文献表の書き方など、一般的なルールや書式を学ぶ。また研究不正とは何かについて事例とともに知っておく。 前期プレゼンテーションを行う。 研究や論文執筆における不正としてどのようなものが考えられるか、5つ以上探しておく。 自身の前期プレゼンテーションに感想・反省をつけて提出する。

第5回	[9/29(火) 11:20~13:00]
授業:	批判校訂版楽譜について①:楽譜校訂とは? 専門的な音楽研究で用いられる批判校訂版楽譜がなぜ必要で、それがどのように作成されているのかを学ぶ。 各人の後期プレゼンテーションのテーマを決める。
事前学習:	批判校訂版楽譜にどのようなものがあるか探しておく。
事後学習:	後期プレゼンテーションの準備を進める。
第6回	[10/20(火) 11:20~13:00]
授業:	批判校訂版楽譜について②:序文を読む 有益な情報源となることの多い批判校訂版楽譜の序文を実際に読む(履修者の状況によっては英文のものを扱う)。 後期プレゼンテーションの経過を発表し、意見を出し合う。
事前学習:	自分が現在使用している楽譜の序文を読み、説明できるようにしておく。
事後学習:	後期プレゼンテーションの準備を進める。
第7回	[11/10(火) 11:20~13:00]
授業:	批判校訂版楽譜について③:校訂報告を読む 校訂報告を実際に読む(履修者の状況によっては英文のものを扱う)。資料間の相違が校訂報告でどのように整理されているかを学び、一般的な省略法・略記法に慣れる。 後期プレゼンテーションの経過を発表し、意見を出し合う。
事前学習:	自分が現在使用している楽譜では異稿のオリジナル資料がどのように示されているか確認し、説明できるようにしておく。
事後学習:	後期プレゼンテーションの準備を進める。
第8回	[12/1(火) 11:20~13:00]
授業:	プレゼンテーション 後期プレゼンテーションを行い、授業を総括する。
事前学習:	効果的なプレゼンテーションに求められるものとは何かを考え、5つ以上挙げられるようにしておく。
事後学習:	自身の後期プレゼンテーションに感想・反省をつけて提出する。
◆履修2年目	
第1回	
授業:	個別指導①:研究課題、研究計画の確認
事前学習:	研究課題、研究計画、現時点での進捗状況を説明できるようにしておく。
事後学習:	指導に基づき、仮目次を作成する。
第2回	
授業:	個別指導②:研究の進捗状況(方法論等)の確認
事前学習:	研究の推進・遂行。
事後学習:	指導に基づき、研究方法等を再考する。
第3回	
授業:	個別指導③:研究の進捗状況(先行研究調査等)の確認
事前学習:	研究の推進・遂行。
事後学習:	指導に基づき、参照する先行研究等を再考する。
第4回	
授業:	個別指導④:研究の進捗状況(分析の精度等)の確認
事前学習:	研究の推進・遂行。
事後学習:	指導に基づき、分析方法・内容を再考する。
第5回	
授業:	個別指導⑤:修士論文(序盤)の進捗状況の確認
事前学習:	修士論文の執筆。
事後学習:	指導に基づき、論文を推敲する。
第6回	
授業:	個別指導⑥:修士論文(中盤)の進捗状況の確認
事前学習:	修士論文の執筆。
事後学習:	指導に基づき、論文を推敲する。
第7回	
授業:	個別指導⑦:修士論文(終盤)の進捗状況の確認
事前学習:	修士論文の執筆。

事後学習:	指導に基づき、論文を推敲する。
第 8 回	
授業:	個別指導⑧: 修士論文全体の確認
事前学習:	修士論文を完成させる。
事後学習:	指導に基づき、論文を修正し提出する。

【履修資格／履修に必要な予備知識や技能】

1・2年次生。再履修:可。

修士論文による審査で修了審査を受ける者は、2年通しての履修が必須。

【授業の形式】

履修 1 年目: 講義(一部に演習を含む)、履修 2 年目: 個別指導

※履修 2 年目の者は、遅くとも 5 月上旬までに初回個別指導の予約を取ること。

【成績評価の要点】

履修 1 年目:

試験: 無し 提出課題・作品発表等(前期・後期各 1 回のプレゼンテーション): 50% 受講姿勢(出席や発言など、授業への積極的な参加): 50%

成績評価は、上記の項目に基づき「優」「良」「可」「不可」で評価する。

履修 2 年目:

試験: 無し 提出課題・作品発表等(毎回の研究精度): 60% 受講姿勢(研究への取り組み姿勢): 40%

成績評価は、上記の項目に基づき「優」「良」「可」「不可」で評価する。

【課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法】

履修 1 年目は原則として毎回の授業冒頭で事前・事後学習へのフィードバックを行い、必要に応じてメールで個別に補足する。

履修 2 年目は個別指導自体がフィードバックを兼ねる。

【事前・事後学習、必要時間】

履修 1 年目は 1 コマにつき、合計約 180 分の事前・事後学習を必要とする。

履修 2 年目は各自の修士論文の内容によって異なるが、おおむね週 10 時間程度の研究時間が想定される。

【教材】

佐藤望編著『アカデミック・スキルズ 第 4 版 AI 時代の知的技法入門』慶應義塾大学出版会、2026 年。

また本授業ではノート・パソコンやタブレット型端末等の執筆媒体が必須となる。そのような媒体を所持していない(用意できない)場合には事前に相談すること。

【授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合】

オフィス・アワーで受け付けるほか、授業の前後 10 分間にも質問可。簡単な内容であればメールによる問い合わせにも対応する。